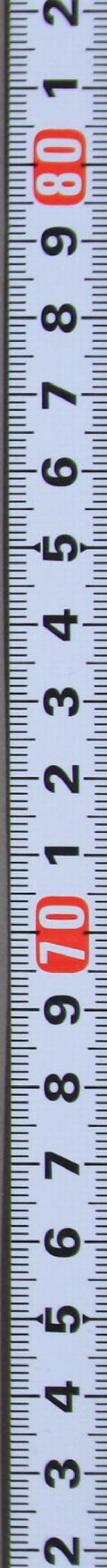


武志
科
集

六
路





以下

3丁

白紙

根源
美
心
友

集

喜鶴堂
新歌

五編上



孤芳華

根源
美
心
友

五編

仙果作
國貞畫

喜鶴堂



實紫五編 藏人の所蔵の道包抄の
本文ありぬ ながらあやむせむれぬかまをき
東宮のたふすのり 劍奎のみをともすけ
まわしめみことのりてくやうなる包あそんの
ちがひを左大臣包家公の東宮の御祖父
るれがゆんあころぬるるるれども
御孫皇子のゆをたぐ
帝位をまきまき
るれがゆんあころぬるるれども
なるあ
のるあ
天の下に一日のまき
あまのまきまき
まきまきのまきまき
まきまきのまきまき
まきまきのまきまき
内裏のまきまき
みまきのまきまき
まきまきのまきまき
まきまきのまきまき
まきまきのまきまき



笠亭 仙果編述
東宮の
御孫皇子
天皇とす
のりてくやうなる包あそんの
まわしめみことのりてくやうなる包あそんの
ちがひを左大臣包家公の東宮の御祖父
るれがゆんあころぬるるれども
御孫皇子のゆをたぐ
帝位をまきまき
るれがゆんあころぬるるれども
なるあ
のるあ
天の下に一日のまき
あまのまきまき
まきまきのまきまき
まきまきのまきまき
まきまきのまきまき
内裏のまきまき
みまきのまきまき
まきまきのまきまき
まきまきのまきまき
まきまきのまきまき



紫式部一
話根源實紫五編

笠亭仙果作
蝶楼國貞画
佐野屋文庫





○宣孝室 野洲子

○侍婢 目川

源次 豈 販藥 香鞭筆 火戲



箕田源次 綱 後邊 苗字



右の傳曲五團包

凶賊 茨木童子 隠
羅城門樓上



此系云部
新花の
うらむ

家集
まをぬらの身は
あつたおの
つゆもえり

はのうらむあつた
おのうらむあつた
おのうらむあつた

仕女
萱

伊勢物語



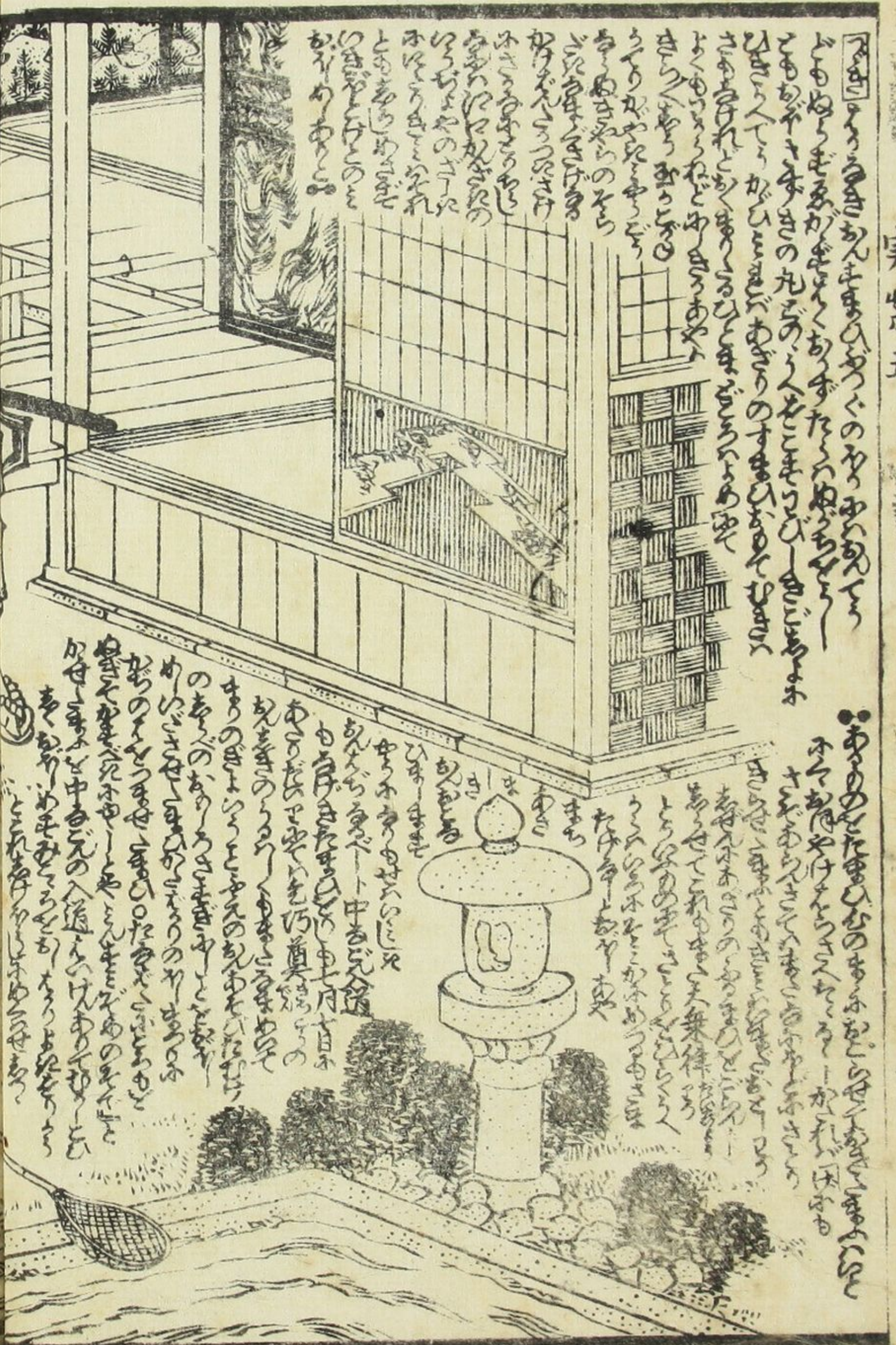
此の如くは
 世に於ては
 人の心は
 常に動かし
 易しきもの
 なるべし
 故に其の
 心を正し
 けりて
 徳を修め
 べきなり
 此の如くは
 世に於ては
 人の心は
 常に動かし
 易しきもの
 なるべし
 故に其の
 心を正し
 けりて
 徳を修め
 べきなり

此の如くは
 世に於ては
 人の心は
 常に動かし
 易しきもの
 なるべし
 故に其の
 心を正し
 けりて
 徳を修め
 べきなり
 此の如くは
 世に於ては
 人の心は
 常に動かし
 易しきもの
 なるべし
 故に其の
 心を正し
 けりて
 徳を修め
 べきなり

此の如くは
 世に於ては
 人の心は
 常に動かし
 易しきもの
 なるべし
 故に其の
 心を正し
 けりて
 徳を修め
 べきなり
 此の如くは
 世に於ては
 人の心は
 常に動かし
 易しきもの
 なるべし
 故に其の
 心を正し
 けりて
 徳を修め
 べきなり



111



112

此の如きは... 九月の月見... 此の如きは... 九月の月見...
 此の如きは... 九月の月見... 此の如きは... 九月の月見...
 此の如きは... 九月の月見... 此の如きは... 九月の月見...

此の如きは... 九月の月見... 此の如きは... 九月の月見...
 此の如きは... 九月の月見... 此の如きは... 九月の月見...
 此の如きは... 九月の月見... 此の如きは... 九月の月見...



この巻のやまは... 九編 十編... 十一編... 十二編... 十三編... 十四編... 十五編... 十六編... 十七編... 十八編... 十九編... 二十編...

この巻のやまは... 廿一編... 廿二編... 廿三編... 廿四編... 廿五編... 廿六編... 廿七編... 廿八編... 廿九編... 三十編...



紀源實むとらん

自九編至十四編 笠亭仙果作 當辰正月發兌 歌川國貞画

安政四年丁巳新春新刊目錄

九編 惟規少將再度中將... 十編 六田の梭手見嫉... 十一編 惟規北国流浪... 十二編 惟規... 十三編 式部... 十四編 式部... 十五編... 十六編... 十七編... 十八編... 十九編... 二十編... 廿一編... 廿二編... 廿三編... 廿四編... 廿五編... 廿六編... 廿七編... 廿八編... 廿九編... 三十編... 花兄弟陸奥名所... 同作國芳画... 喜鶴堂敬白

仙果 作 國 貞 画

外題曲多同也



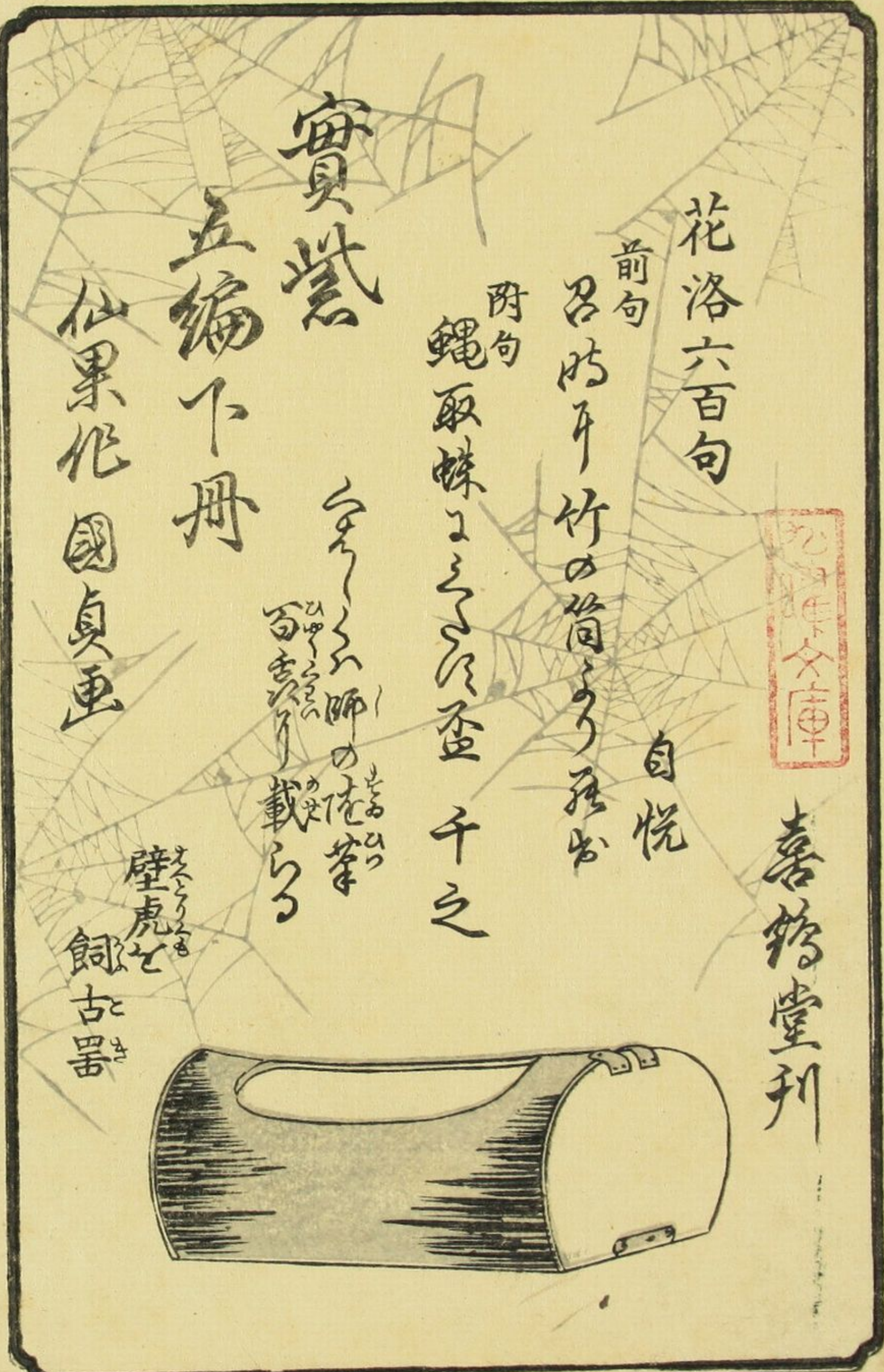
五編下





美世集五

上



花洛六百句

前句

召時千竹の筒より花書

自悦

附句

蠅取蛛より千盃千之

寶貝紫

今うらみ師のたき

百舌り載らる

五編下冊

仙果化國貞画

壁虎を

飼古罝



嘉納堂刊

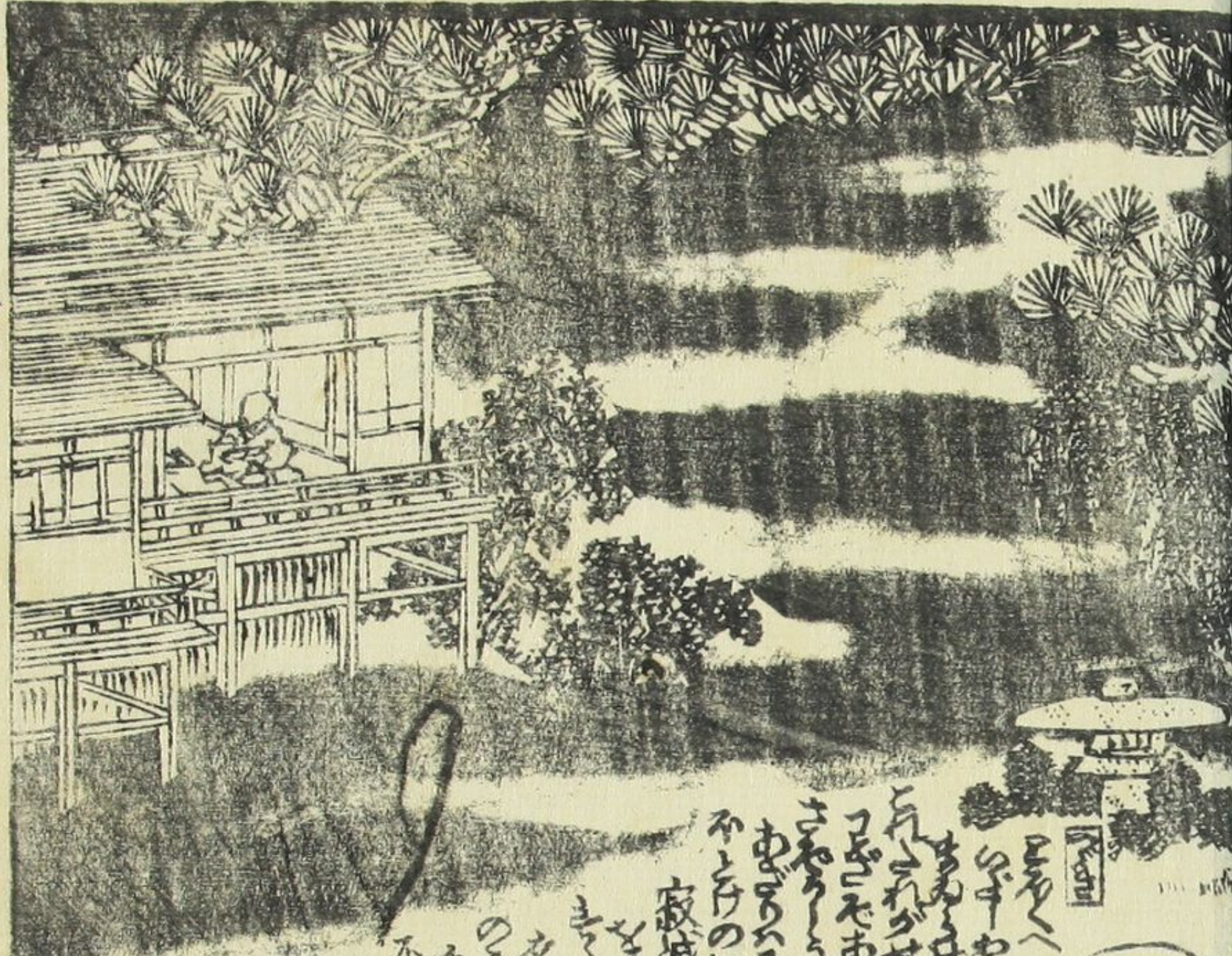


そのころあや
 ちりよとて
 あれみやぶ
 まる中をさやう
 申すかやふとこまのあや
 初めは兼香殿のまじりの
 ちりよとてよとてあや
 申すかやふとこまのあや
 初めは兼香殿のまじりの
 ちりよとてよとてあや
 申すかやふとこまのあや
 初めは兼香殿のまじりの

ひまのあやかやふとこまのあや
 この日本橋村のあやか
 申すかやふとこまのあや
 初めは兼香殿のまじりの

左より
 うらやうらやう
 ちりよとてよとてあや
 申すかやふとこまのあや
 初めは兼香殿のまじりの

ひまのあやかやふとこまのあや
 この日本橋村のあやか
 申すかやふとこまのあや
 初めは兼香殿のまじりの



此の山は...
 松の葉は...
 霧の香は...
 雲の影は...
 水の流れは...
 石の音は...
 鳥の鳴きは...
 虫の音は...
 人の声は...
 神の御霊は...
 天の御座は...
 地の御座は...
 水の御座は...
 火の御座は...
 風の御座は...
 雷の御座は...
 雲の御座は...
 霧の御座は...
 雨の御座は...
 雪の御座は...
 氷の御座は...
 霜の御座は...
 露の御座は...
 雪の御座は...
 氷の御座は...
 霜の御座は...
 露の御座は...

此の山は...
 松の葉は...
 霧の香は...
 雲の影は...
 水の流れは...
 石の音は...
 鳥の鳴きは...
 虫の音は...
 人の声は...
 神の御霊は...
 天の御座は...
 地の御座は...
 水の御座は...
 火の御座は...
 風の御座は...
 雷の御座は...
 雲の御座は...
 霧の御座は...
 雨の御座は...
 雪の御座は...
 氷の御座は...
 霜の御座は...
 露の御座は...



此の山は...
 松の葉は...
 霧の香は...
 雲の影は...
 水の流れは...
 石の音は...
 鳥の鳴きは...
 虫の音は...
 人の声は...
 神の御霊は...
 天の御座は...
 地の御座は...
 水の御座は...
 火の御座は...
 風の御座は...
 雷の御座は...
 雲の御座は...
 霧の御座は...
 雨の御座は...
 雪の御座は...
 氷の御座は...
 霜の御座は...
 露の御座は...



あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...

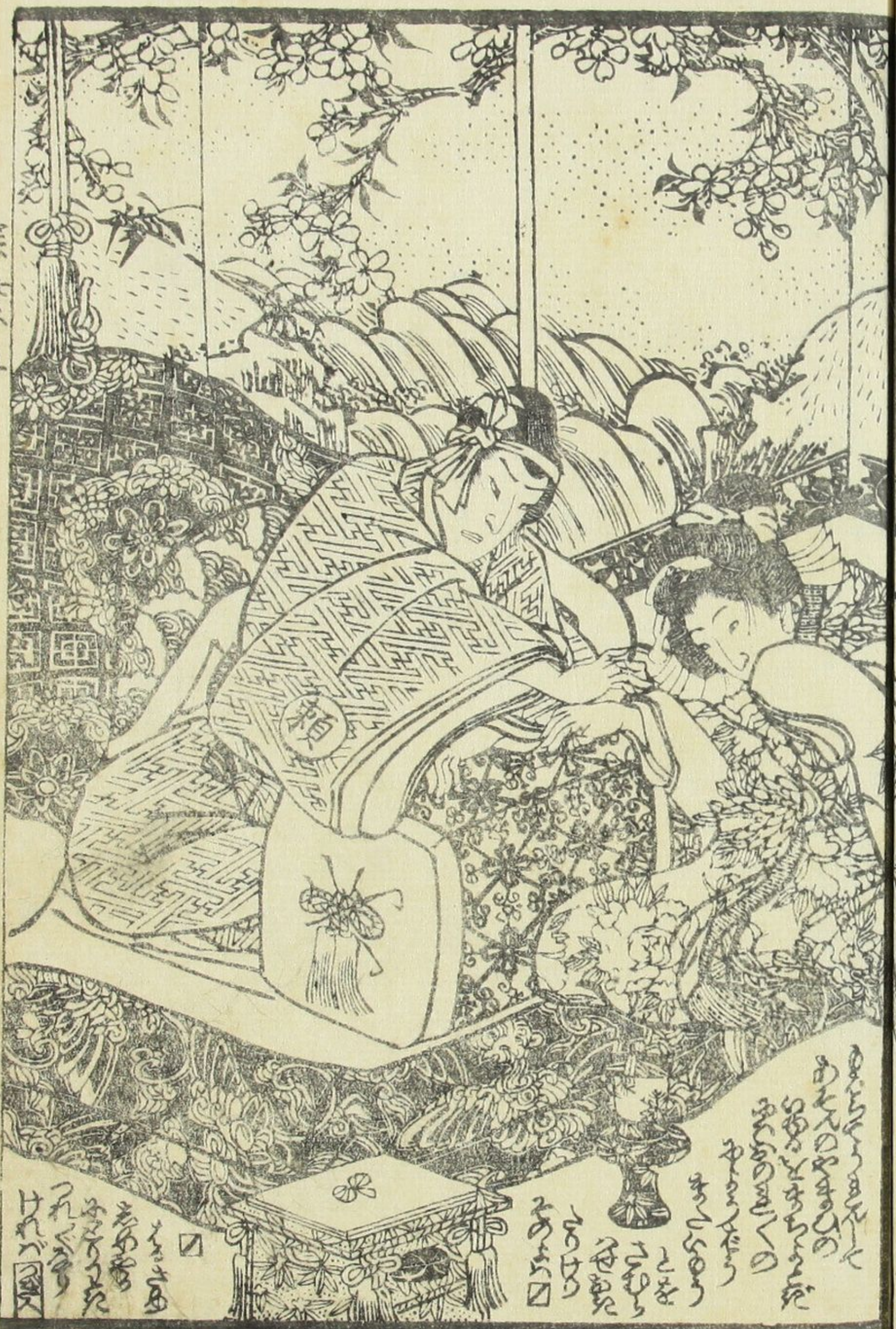
あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...

あまの...
あまの...
あまの...

あまの...



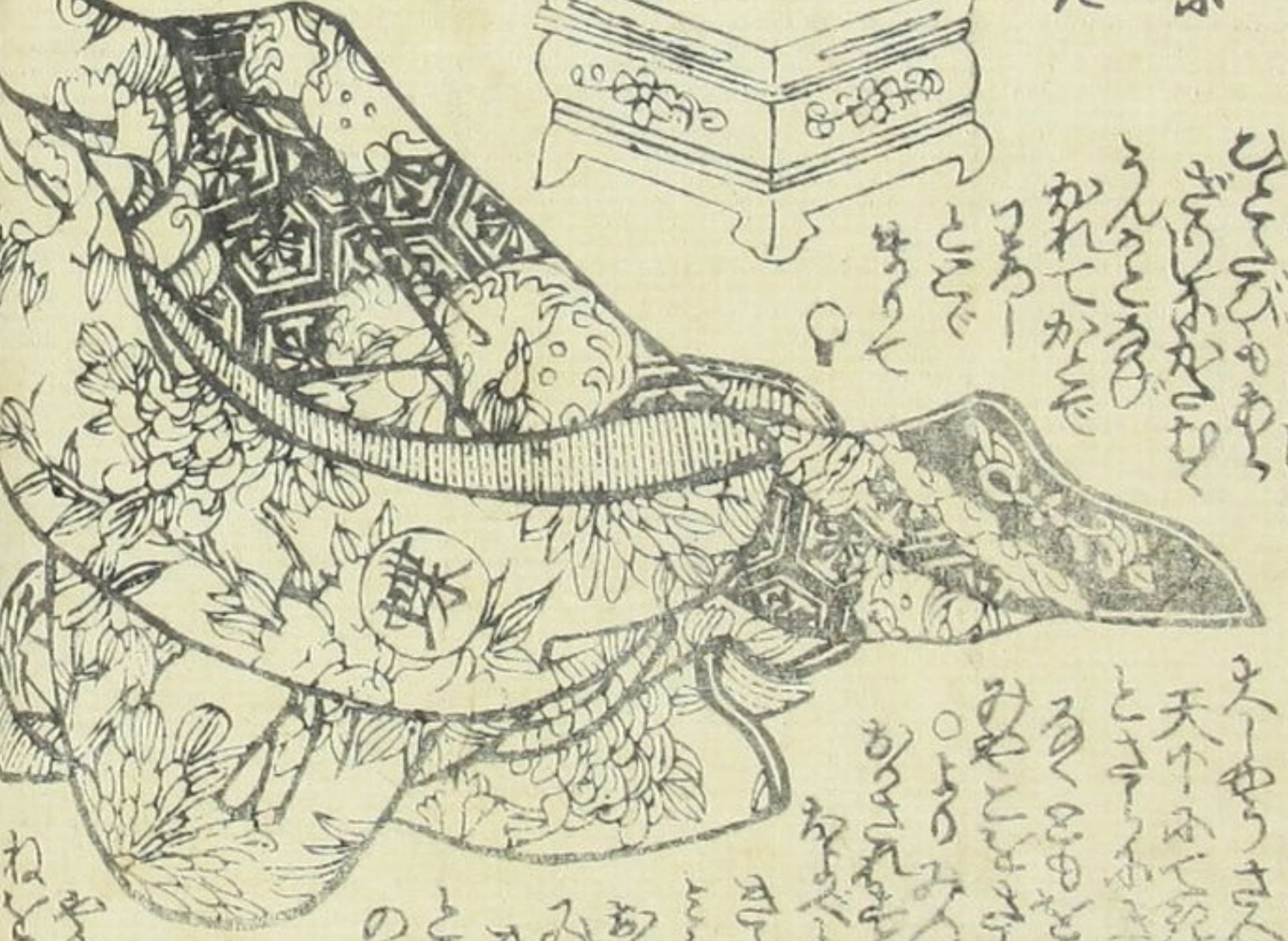
何れも
 中田院
 何れも
 何れも
 何れも

何れも
 何れも
 何れも
 何れも
 何れも
 何れも



何れも
 何れも
 何れも
 何れも
 何れも
 何れも

何れも
 何れも
 何れも
 何れも
 何れも
 何れも



何れも
 何れも
 何れも
 何れも
 何れも
 何れも

何れも
 何れも
 何れも
 何れも
 何れも
 何れも



あはれなりみちちりあり
せらふ小ふとらる女ありられも
ちどろいさりありてささかすせち

きこれるるる
きこれるるる
きこれるるる

ねむいさまをさるまれば
はくもさのさるまれば
あはれなりみちちりあり
ささかすせち
これいささか

よひのりさるまのトうち
きこれるるる
あはれなりみちちりあり
ささかすせち
これいささか

あはれなりみちちりあり
せらふ小ふとらる女ありられも
ちどろいさりありてささかすせち

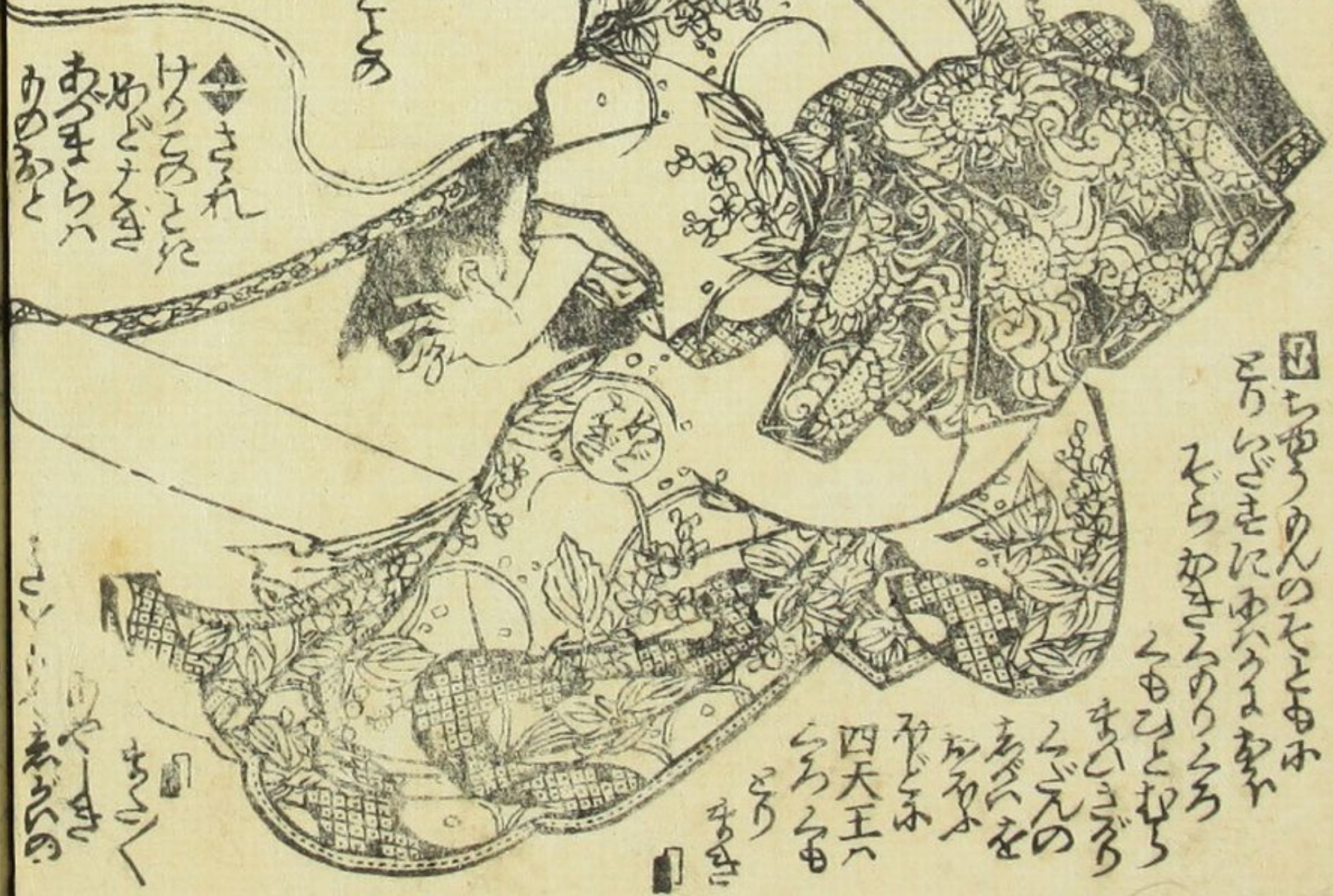
よひのりさるまのトうち
きこれるるる
あはれなりみちちりあり
ささかすせち
これいささか

実
世
が
五

十
六

四 花鳥をよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 花鳥をよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ

五 花鳥をよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 花鳥をよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ



七 花鳥をよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 花鳥をよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ

八 花鳥をよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 花鳥をよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ

九 花鳥をよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 花鳥をよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ
 やとりのこころをよみてうらたまふ

安政四年丁巳年孟春新鐫目録

<p>新增補西國奇談 <small>爲永春水作 歌川國貞画</small></p>	<p>夢想兵衛勘畧枕 <small>笠亭仙果作 一勇齋國芳画</small></p>	<p>総次郎琴聲美人録 <small>同 立川齋國郷画</small></p>	<p>娘庭訓金鶏 <small>山東庵京山作 梅蝶樓國貞画</small></p>
<p>井 佐野屋喜兵衛板 <small>東都地本繪草紙團扇問屋 芝神明前三島町角</small></p>	<p>花兄弟陸奥名所 <small>同 歌川國貞画</small></p>	<p>根源實紫 <small>同 笠亭仙果作</small></p>	<p>吉七松梅竹取物語 <small>樂亭西馬作 歌川國貞画</small></p>

仙果作
 國貞画



華工
 谷金川

眞國
画

仙
果
作



上編六

仙果作眞國





花盛の徐く風一葩二葩散の愛相相思中の小友目小肌ら
 是る悪くもあ其此の草跡のるよびつ小女とこれあまの
 小室のひらひらとあまのそとに母あはくのとかまこれら小婦人向
 草冊子ありて温柔過ての事ありあはくと一寸保輔を補点する草が顔
 で前太平記の陥入るる落流狼藉捕るごころか乍斬乍歐清和源氏の威勢
 光源氏の作者も閉口抑是へ綱がさるる鬼とひとく女とあそ人を狂惑は
 戲作とて不義知のあまの多かたてと垂し袴を端折上て緋袴小五夜世六帙目の下
 巻より温和のそよ吹風の風流花志小実家の実の偏(おとも)画模様は上品中
 つとめて作とあまの情ふ引蓋られてあまのく化粧のそるるる

嘉永七年
 甲寅新春

笠亭仙果



ふたむすび

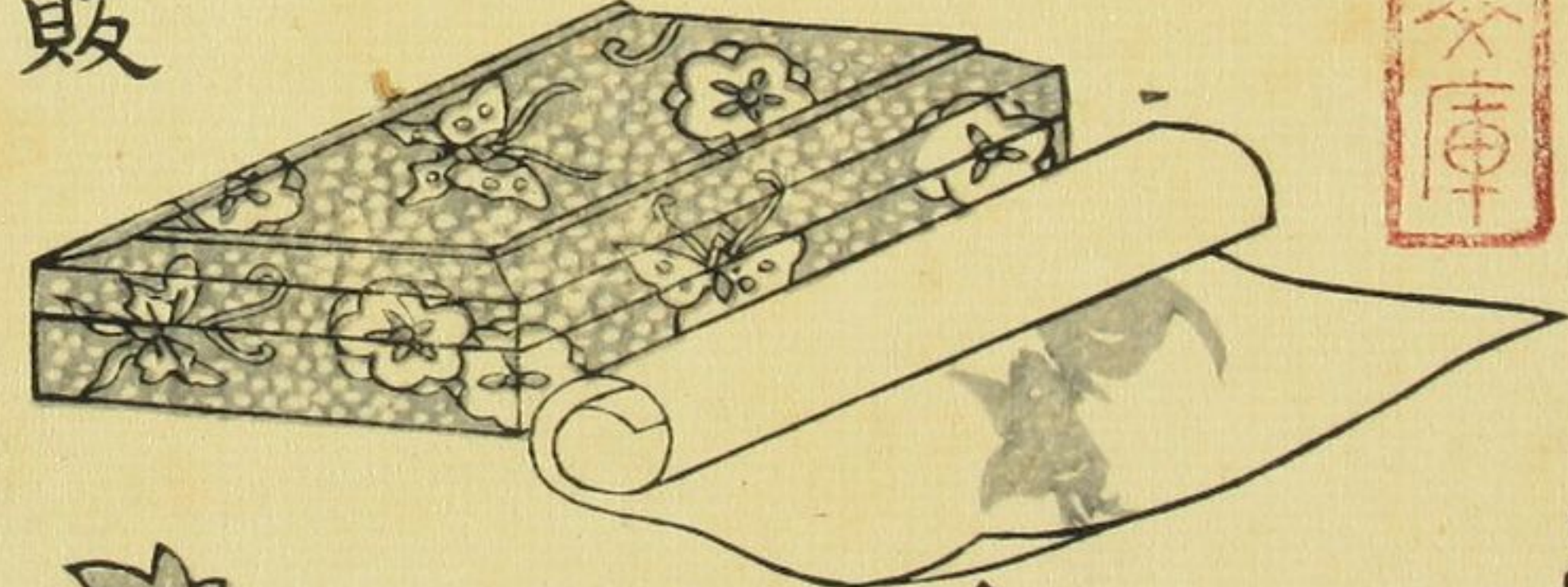
さしあ

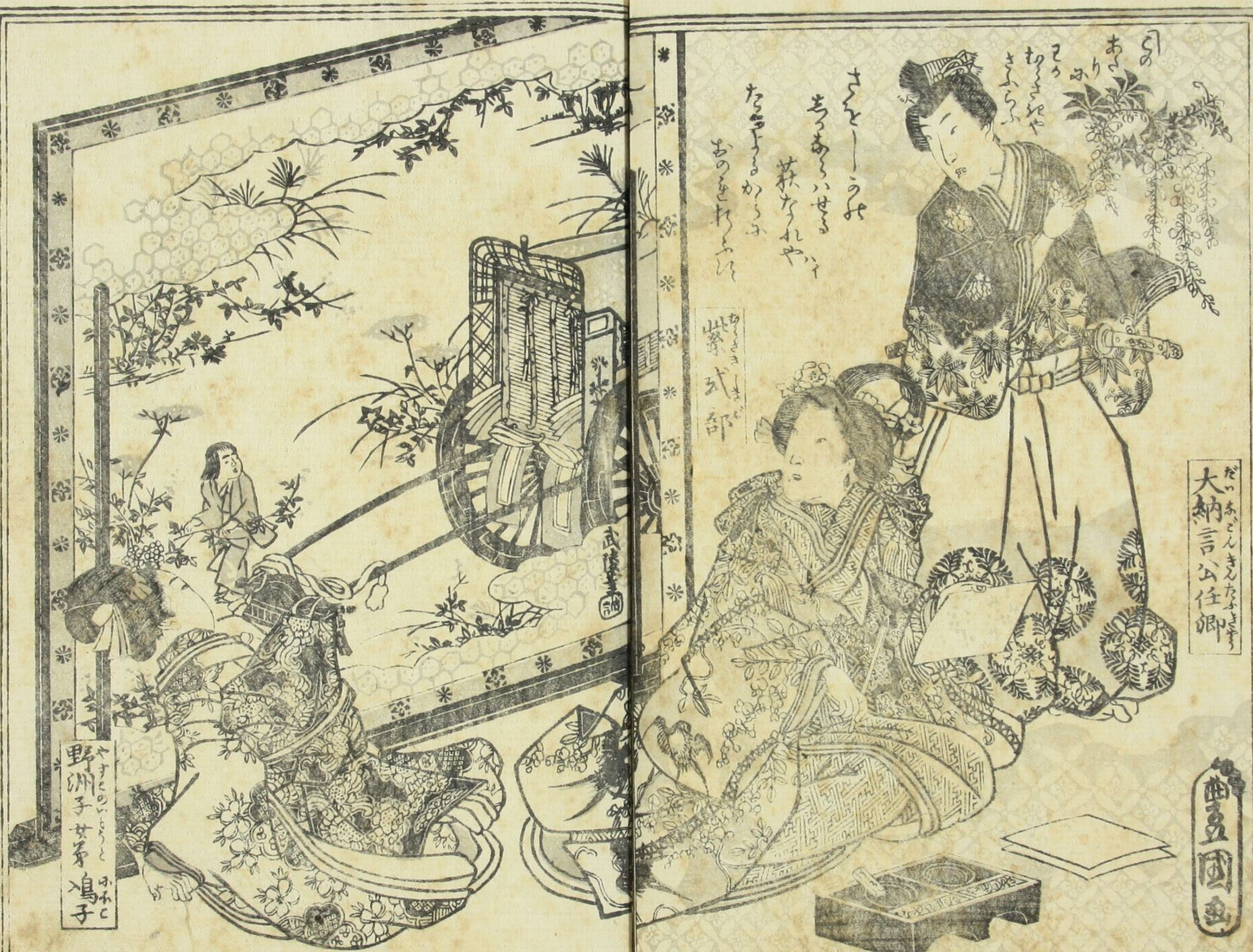
六編上

仙果作

國貞画

さしあや装販





あつち
 こ
 あつち
 こ
 あつち
 こ

武
 式
 部

大
 納
 言
 公
 任
 卿

曲
 五
 國
 魚

野
 洲
 子
 女
 弟
 鳩
 子

武
 式
 部

白井 牧莊
のりてき
まきしんせ
ね所をわりの
すまは
くま

みる
みる
みる

男童
皆岸
右

選子内
親王家
少将

齋院次官
藤原惟規

半若
女貞

曲立園





Vertical text on the left edge of the page.

Vertical text on the right edge of the page.

Vertical text columns at the top of the right page.

Horizontal text columns at the bottom of both pages.

Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or transcription, surrounding the illustration of a woman and a child. The text is written in a cursive style.



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or transcription, surrounding the illustration of a man and a woman. The text is written in a cursive style.





Vertical text columns on the top left of the left page, likely serving as a title or introductory text for the scene.



Vertical text columns on the bottom left of the left page, possibly a dialogue or commentary.



Vertical text columns on the right page, surrounding the illustrations and providing a narrative or commentary.

安政四年丁巳春新刊目錄

松源實むとらん

自九編至十四編 笠亭仙果作
當辰正月發兌 歌川國貞画

九編 惟規少將再度中將 軒計小階 曳手妙小其寛と救ふ 齋院御
 櫻の行啓小天変有正名 龜も橋られて中將鳴高罪小伏する 惟規住吉へ
 御使小立三島江口小遊女香炉小值遇 宝の笛で失ひ簞居の事 十編 同人
 密北越山寺の紫式部めづらあひてんわをれとの歌北由來の宣孝丹生
 狭の時胤村の狼藉遊々六田の茅屋小回熟の婦と子小再會 帰各の後中
 宇佐(赴) 十編 六田の接手兒嫉妬小より野洲子病く身小わの鳩兒姉の仇を復
 さんす紫式部一女子と産む後大貲三位賢子是なり 此卷法皇あつたの諾と
 かく書収む 十二編 惟規北国流浪あつたこと多し 紫式部 寡婦小あり上東
 門院小宮仕の願末 十三編 式部父女の忠貞小中々小記 御堂殿小野宮殿
 の栄花と賢才を中々出と花あり實り 御高評を希は
 白の
 花兄弟陸奥名所 初之 同作國芳画 芝神明前 喜鶴堂敬白



仙果作國貞画



根
實
源
紫

喜
鶴
文
庫

六編下





このうき世の
ことごとく
まへひはれを
うき世の
まへひはれを
うき世の
まへひはれを
うき世の
まへひはれを

●女のまへひはれ
あはれやまへひはれ
あはれやまへひはれ
あはれやまへひはれ
あはれやまへひはれ

五五五五五
五五五五五
五五五五五
五五五五五
五五五五五

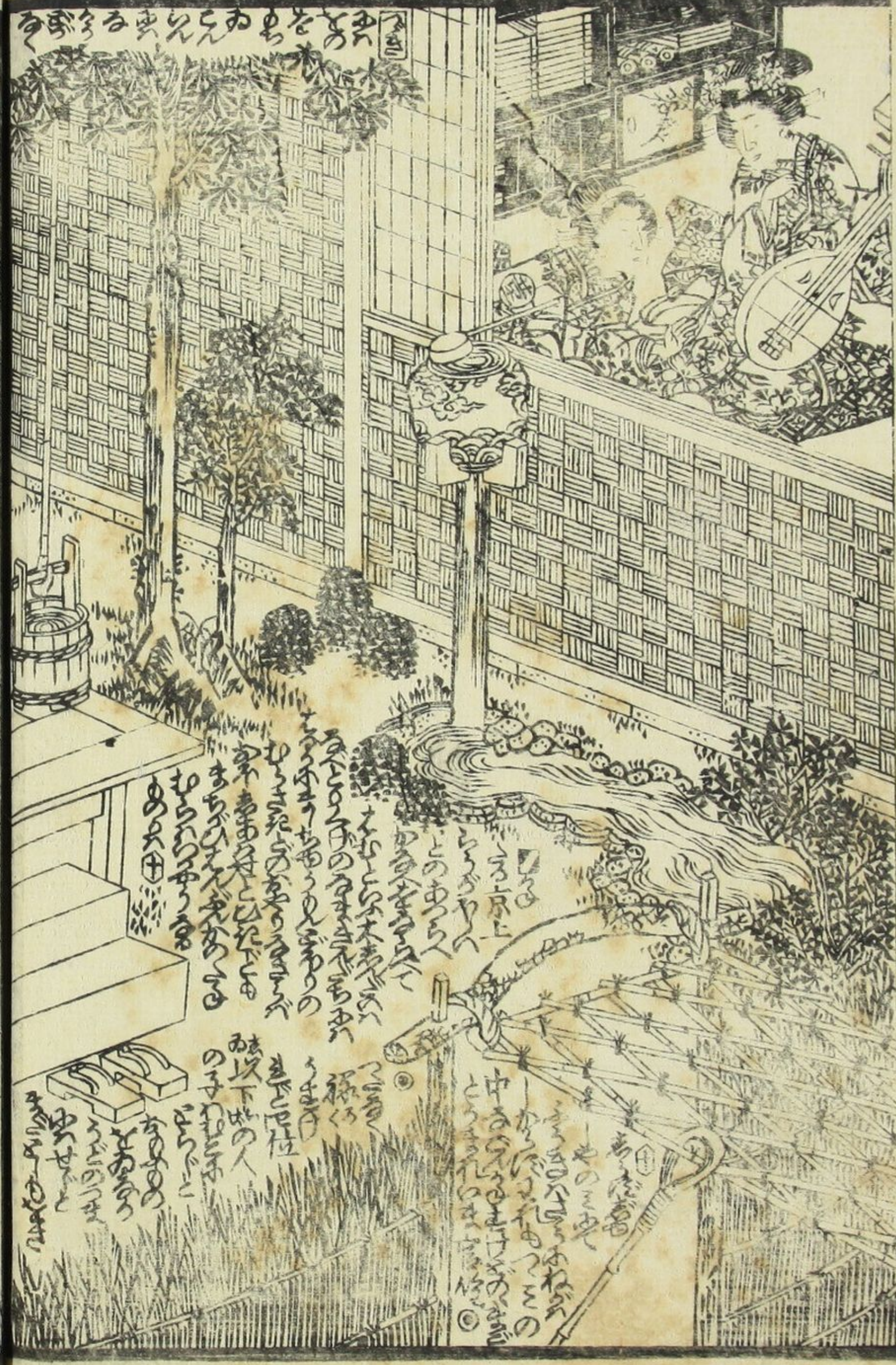
おききまむ
みむ
さやま
う編
下長
まら
仙果化
國貞画



わたりち

あの家
まの輝

丸印文庫



山崎

十一

山崎



Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the top and left sides of the illustration.

Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the bottom and right sides of the illustration.



Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the top and left sides of the illustration.

Handwritten Japanese text in vertical columns, surrounding the bottom and right sides of the illustration.

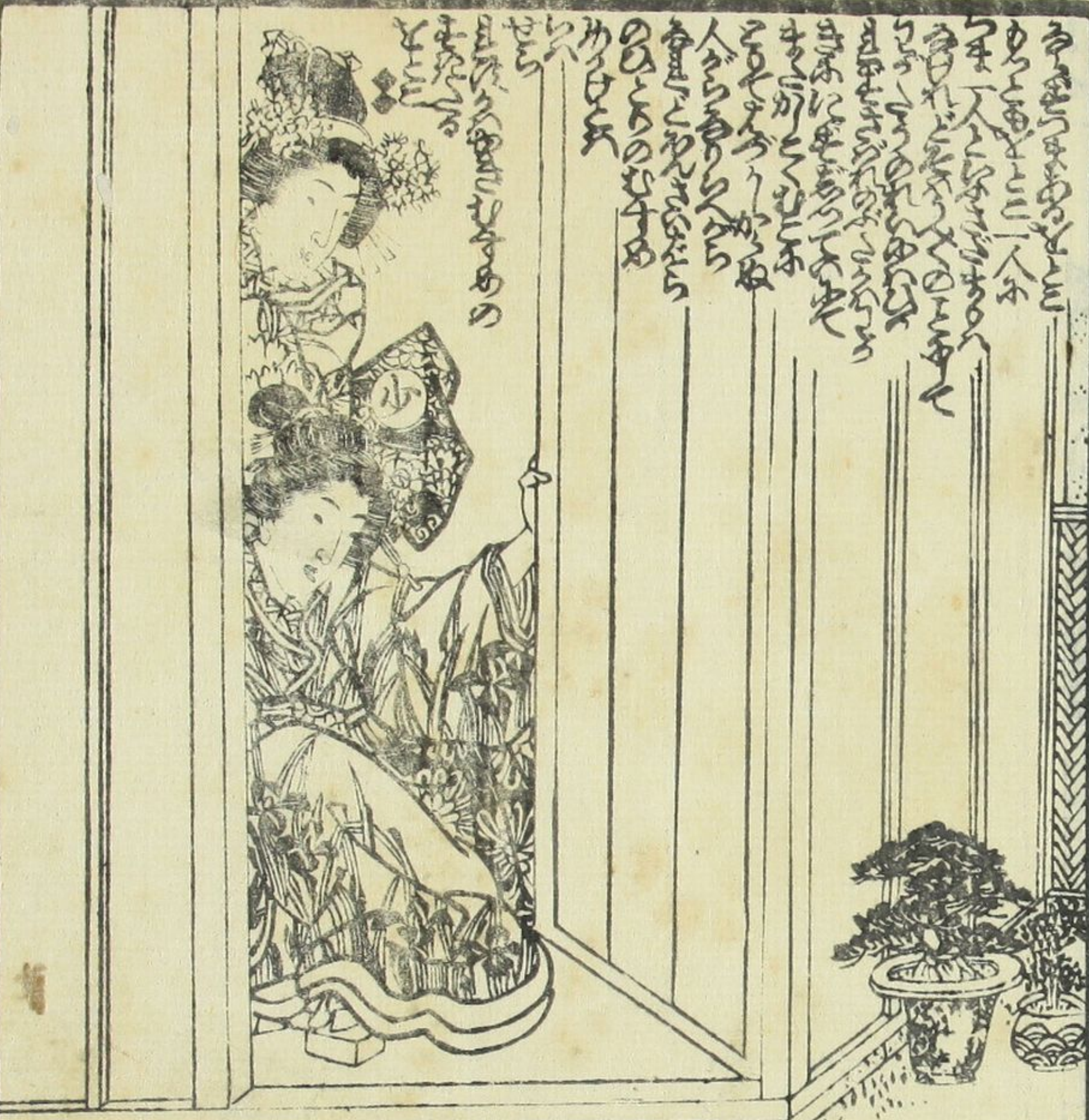
三六
The first part of the...
The second part of the...
The third part of the...
The fourth part of the...
The fifth part of the...
The sixth part of the...
The seventh part of the...
The eighth part of the...
The ninth part of the...
The tenth part of the...



十月...
The first part of the...
The second part of the...
The third part of the...
The fourth part of the...
The fifth part of the...
The sixth part of the...
The seventh part of the...
The eighth part of the...
The ninth part of the...
The tenth part of the...



The first part of the...
The second part of the...
The third part of the...
The fourth part of the...
The fifth part of the...
The sixth part of the...
The seventh part of the...
The eighth part of the...
The ninth part of the...
The tenth part of the...



Handwritten text in the upper right corner of the illustration, likely a title or a short scene description.

Handwritten text in the lower left corner of the illustration, possibly a dialogue or a longer scene description.

Vertical text on the left margin of the page.

Vertical text on the left margin of the page.



Small text or signature in the upper left corner of the illustration.

Handwritten text in the lower right corner of the illustration, possibly a dialogue or a longer scene description.

Vertical text on the right margin of the page.



Handwritten Japanese text in the top left corner of the left page.

Handwritten Japanese text in the top right corner of the left page.

Handwritten Japanese text in the middle right of the left page.

Handwritten Japanese text in the bottom right of the left page.



Handwritten Japanese text in the top left corner of the right page.

Handwritten Japanese text in the middle left of the right page.

Handwritten Japanese text in the bottom right of the right page.

Vertical text on the right edge of the right page.



内叙上は場のこのころの
のあつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの

みり
かき
あひ
あひ
あひ
あひ
あひ
あひ
あひ
あひ



あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの

あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの
あつちつとひひこめまの

実業六

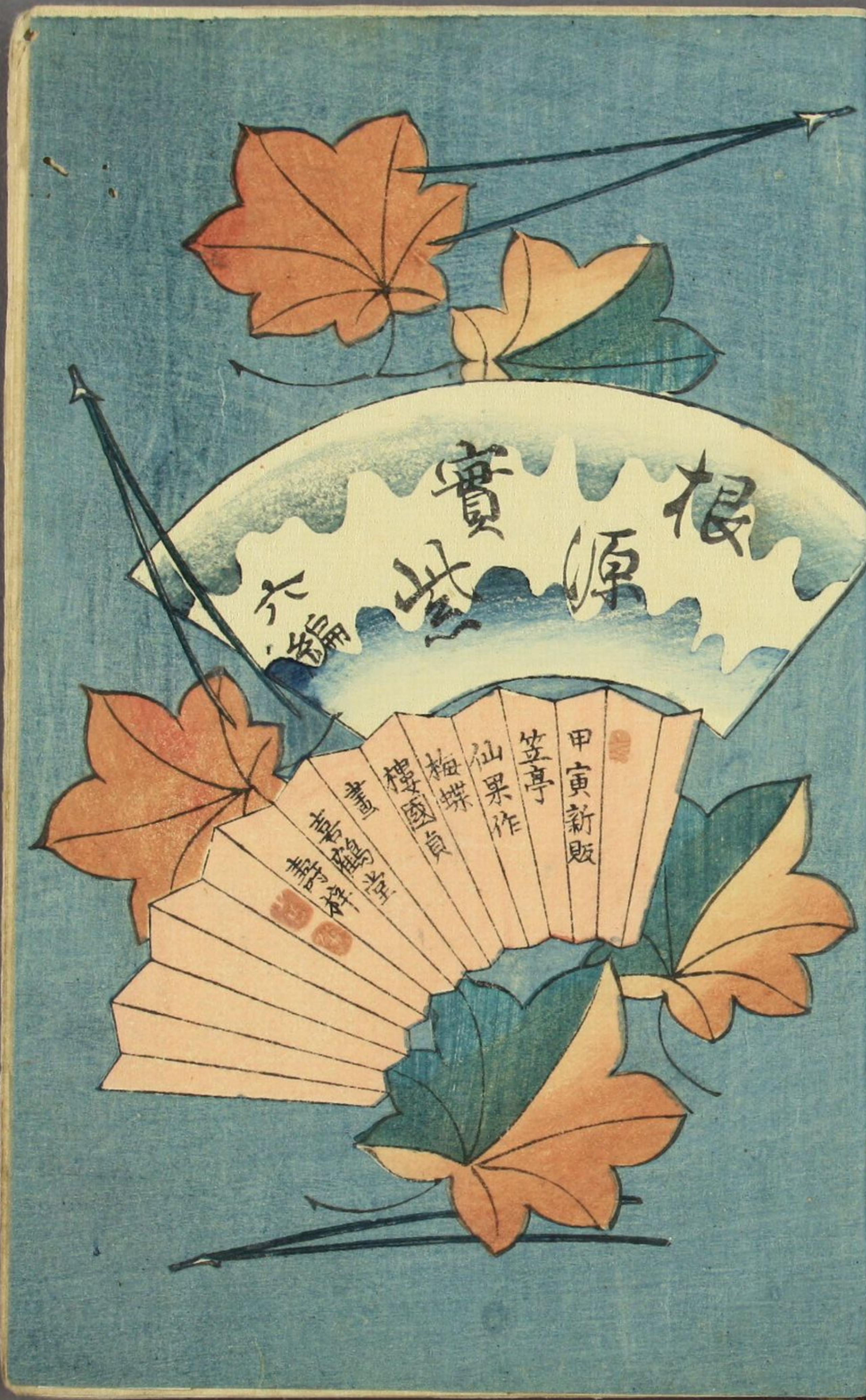
安政四年巳年孟春新鑄目錄

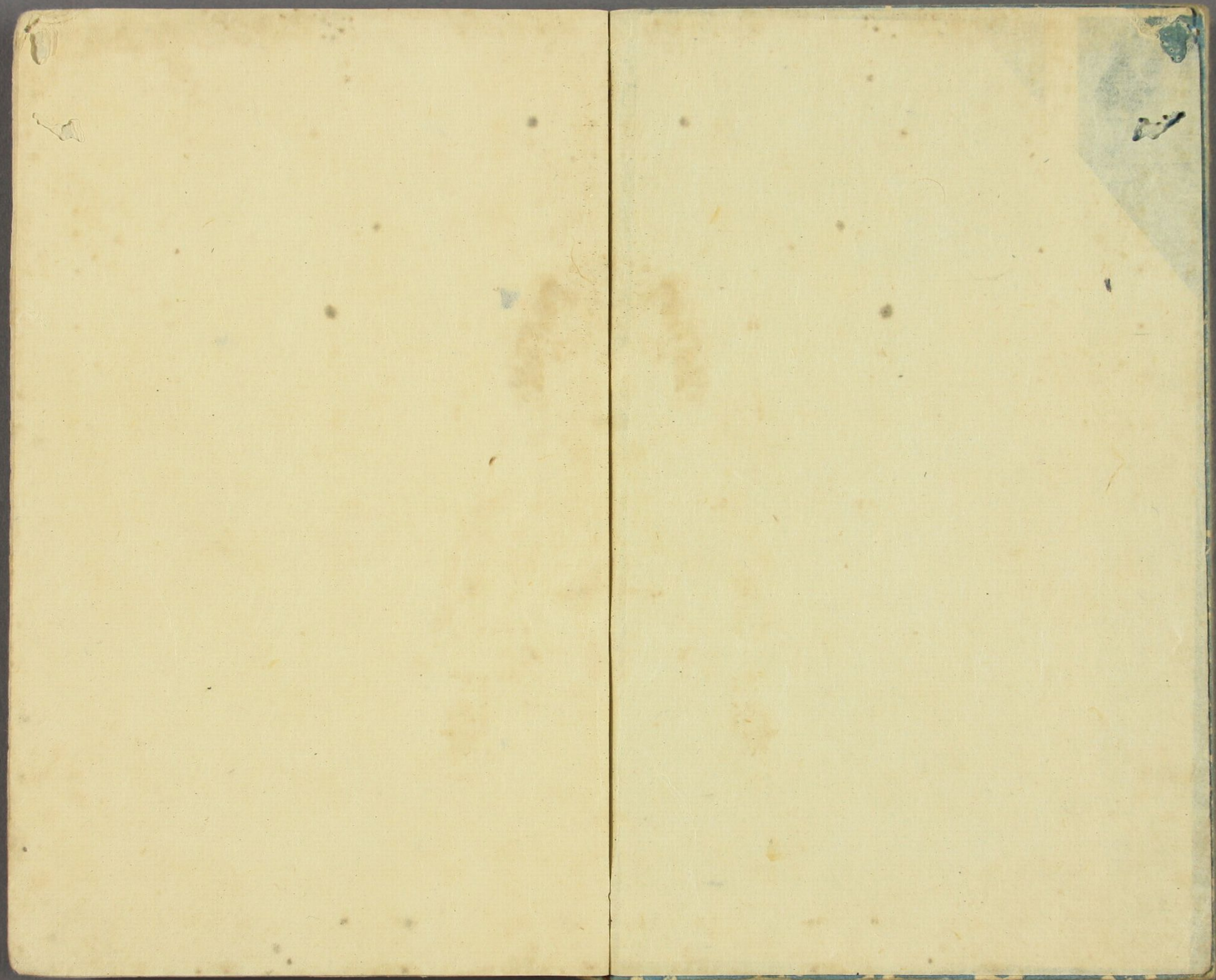
<p>新增補西國奇談 為永春水作 歌川國貞編 五編 四編 三編</p>	<p>夢想兵衛勘咎枕 笠亭仙果作 一勇齋國芳画 大尾編</p>	<p>総次郎琴聲美人録 同 立川齋國郷画 十四編 十五編 十六編</p>	<p>娘庭訓金鶏 山東庵京山作 梅蝶樓國貞画 初二編 二編</p>
<p>井 佐野屋喜兵衛板 東都地本繪草紙團扇問屋 芝神明前三島町角</p>	<p>花兄弟陸奥名所 同 歌川國貞画 初二編 編</p>	<p>根源實紫 同 笠亭仙果作 歌川國貞画 十一編 十二編</p>	<p>吉三松梅竹取物語 樂亭西馬作 歌川國貞画 初二編 編</p>

國貞画 仙果作



中巻
仙果作
國貞画
惟
わで









上
下
中
外